

★吉野ヶ里町地球温暖化対策実行計画の実績報告(2020年度)について

2017年度に策定した「吉野ヶ里町地球温暖化対策実行計画(事務事業編)」で、吉野ヶ里町の管理する施設では、2022年度までに温室効果ガス排出量の『22%以上削減』(2013年度実績値を基準)、2030年度までに『40%以上削減』(2013年度実績値を基準)を目標として掲げ、省エネルギーに取り組んでいます。

年度	2013年度 (基準年度)	2022年度 (中間目標年度)	2030年度 (最終目標年度)
温室効果ガス総排出量 (t - CO ₂)	4,480.6	3,472.0	2,688.0

2020年度の温室効果ガス総排出量は2,748.6トン(t - CO₂)でした。

○温室効果ガスの総排出量

- ・総排出量は、基準年度(2013年度)比で約1,732トン減少しました。
- ・基準年度(2013年度)からの増減比率は38.7%減となりました。

年度		基準年度 (2013)	2016	2017	2018	2019	2020
温室効果ガス総排出量 (t - CO ₂)		4,480.6	3,775.6	3,596.6	2,832.6	2,779.6	2,748.6
基準年度 (2013年度) との比較	排出量 (t - CO ₂)	—	▲705.0	▲884.0	▲1,648.0	▲1,701.0	▲1,732.0
	増減率 (%)	—	▲15.7	▲19.7	▲36.8	▲38.0	▲38.7

○エネルギー別排出量の比較

発生区分	2013年度(基準年度) 排出量(t - CO ₂)	2020年度 排出量(t - CO ₂)	対基準年度増減比率
二酸化炭素(CO ₂)	4,373.0	2,617.0	▲40.2%
メタン(CH ₄)	33.0	41.0	24.2%
一酸化二窒素(N ₂ O)	74.0	90.0	21.6%
ハイドロフルオロカーボン (HFC)	0.6	0.6	0%
合計	4,480.6	2,748.6	▲38.7%

○二酸化炭素排出量の減少理由

電気使用量に関して基準年度(2013年度)と比較すると、電気使用量【参考1】は減少し、加えて電気事業者の二酸化炭素排出係数【参考2】が低下したことにより、排出量が大きく減少しています。ほか、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、温水プール等の公共施設が休館となり、燃料等の使用量が減少したことなども一因と考えられます。

【参考1】電気使用量(吉野ヶ里町庁舎及び関係施設)

年度	基準年度(2013年度)	2020年度
使用量(kWh)	5,448,734	4,505,657

【参考2】電気事業者(九州電力)の二酸化炭素排出係数

年度	基準年度(2013年度)	2020年度
排出係数(t - CO ₂ / kWh)	0.613	0.365